

米書評

刀根 薫監修

「PERT 講座」I, II.

書評者

加藤 昭吉*

日本の産業界が今後ぜひとも学び取るべきことの一つに、プロジェクト管理の技法があるといわれる。つまり、確立された目標に向って、関係者、あるいは関係部門がうまく連携をとり、タイミングを合わせて全体としてむだのない効果的な仕事のまとめ方をするために必要な考え方や技法を身に付けることである。

ところが、こういったことに対して、問題の核心に触れた実践的手法というものはなかなか案出されなかった。しかし、1958 年ごろアメリカで誕生した PERT と呼ばれる手法は、世界各国でかつてない反響をもって迎えられ、わが国でも実践的手法として産業界の各分野でさかんに使用されている。もちろん、建設関係でも施工部門でさかんに活用されており、かなり定着した手法になりつつあるが、時期としては理論面でも実践面でも再考を要する段階にきていると思われる。

したがって、今回発刊のはこびとなった「PERT 講座」I, II 巻は手法の内容をくわしく知るためにも、また現在までに本手法がどのような活用のされかたをしたかを知る上においても、貴重な文献になると思う。

第 I 巻の方は、PERT (Program Evaluation and Review Technique)・CPM(Critical Path Method) 等、一般に Network 手法と呼ばれるものの論理的な背景を扱っている。内容は数学的問題を幅広く、しかもかなり詳細にわたって取り上げているので、一般の実務家にはとりつきにくい欠点があるが、時間をかけて論理的な面を研究する場合には非常に内容が豊富である。第 I 巻

(基礎編)は全体を基本 PERT と応用 PERT の二部に分け、前者ではネットワークの描き方から入って、ネットワーク上の諸計算、実施上の諸注意といった区分で解説を加えている。内容的には特に新しい手法を紹介しているわけではないが、系統的な説明でまとめられている。また後者の方では PERT と確率、人員資材の割り付け、PERT と原価管理、CPM、ネットワークをめぐるという 5 つの項目が設定されて、本手法を発展的に拡張するためのはし渡しがなされている。しかし、基礎編では実際に使用する場合の問題点など、使う側の立場に立った考察はあまりなされていない。それから、本講座発刊の意図として、「健全な PERT 手法の普及」があげられているが、そのためには基礎編でプロジェクト管理の基本理念といったようなものに言及する必要があったように思われる。なぜなら、手法は思想と実行の所産であり、それが正しい理念に基づいて駆使されるときに、はじめて着実な発展をみせるものだからである。

第 II 巻は「実施編」で、わが国各産業界の実施例を収録している。範囲は自動車、土木建設、鉄鋼業、国鉄、石油精製、電力、電気機械、重工業、プラント建設等にわたって、実施状況や問題点等を事例中心に扱っている。したがって、導入する場合の問題点とか、活用の際の実践的なヒントを得る上で役立つと思われる。もちろん実施結果は、現段階では日程情報を中心とする PERT/TIME であるが、MAN-POWER SCHEDULING 等、その周辺の問題も取り上げられている。なお、最後の章は「PERT と原価管理」という標題で、プラント建設(千代田化工)の例が説明され、「PERT/COST の出現によって、日程と結び付いたコストや人員の実績把握が仕事遂行上重要な役割を果たすことが認識され、単なる機械化という概念から日程へのフィードバックをも考えた総合システムという概念に変わってきた以上、もはや原価管理の機械化をちゅうちょする理由はなくなったといえる」と指摘されているが、おそらくこの問題は次巻の第 III 巻で展開される中心的なテーマになることと思う。

東洋経済新報社刊、B5判・254ページ(I)、240ページ(II)・付図16つき、定価2500円(I)、3500円(II)

注：第III巻「管理システム編」電子計算機編、第IV編「拡張編」上記の他に刊行される。

* 正会員 大成建設(株)企画調査部電子計算室

御 案 内

書評小委員会

書評欄が誕生してから1カ年経ちました。この間会員諸氏、出版社各位のご好意にあずかり、多くの貴重な書籍を紹介し得たことをご報告申し上げます。本年もより良き欄と致したく、会員諸氏に下記お願い致します。

本欄の主旨はいうまでもなく、貴重な書籍をより多くの会員諸氏に知らせることであります。当小委員会はこの間に出版されました土木工学分野の関係図書、およびその資質向上に役立つ書籍をできる限り集め掲載するよう努力しておりますが、掲載もれが出ることもあるかと考えられます。各位におかれまして著作された書籍、編集に関与されました書籍、ご存知の方の労作等で推せんに値する書籍がございましたら、本小委員会までご教示下さい。なお、書評、新刊紹介、新刊目録等への選考に関しては本小委員会にご一任頂きたく存じます。